



和歌雜説

全

~ 4
986





門 利
號 986
卷

新真记

世

全





3

3

影供有り

形像也

形像畫也

評仁真傳

色紙短冊章

人磨款像起

龍共會所の行

山本家藏

新樂有乃江、詞書云、後事、
讚詩の弟書と云く、和ふ、
と書き、或所の字、
あり、本より、梅を、
と書き、并、
乃、
有、
乃、
案、
人、

風毛火藻 麟角爲車 既體獨步

誰敢以看

大學致教文

薛原郭中始之致信會行也人磨忘日每
人磨乃書教之御より初分と録せり
ふつとふゆ是は研之は初分存と云ふ
書系之別くは空あり師顔と云つ
郭中の人磨と行作のあり
ふり人磨は掛行の事と初分の書と
ゆふし初分と云ふ略類
之内表に編侍屋と書
此書圖で致信と白雲人磨と
建仁と云ふ致信と云ふ
後鳥羽院御教

くわのわのまのわのまのまのま

まのまのまのまのまのま

日月開八 任事御教

ふのふのふのふのふのふ

まのまのまのまのまのま

日向御教

くわのわのまのわのまのま

まのまのまのまのまのま

初め新初度新初度 江戸物揚のりびり

伊予乃海の産物のきつらゆい

しよよきしよきしよき

水に踊る 高申物々々々

花白のいしよいしよ

るゆ水く子きめりり

^建建もこき 神祐高 高申物々々

玉子のふるりりりり

ふゆりりりりりり

回船道々々 新登内尺

下のりりりりりり

一 高申物々々々

日 高申物々々

あゆりりりりりり

りりりりりりり

回船道 高申物々

りりりりりりり

あゆりりりりりり

りりりりりりり

りりりりりりり

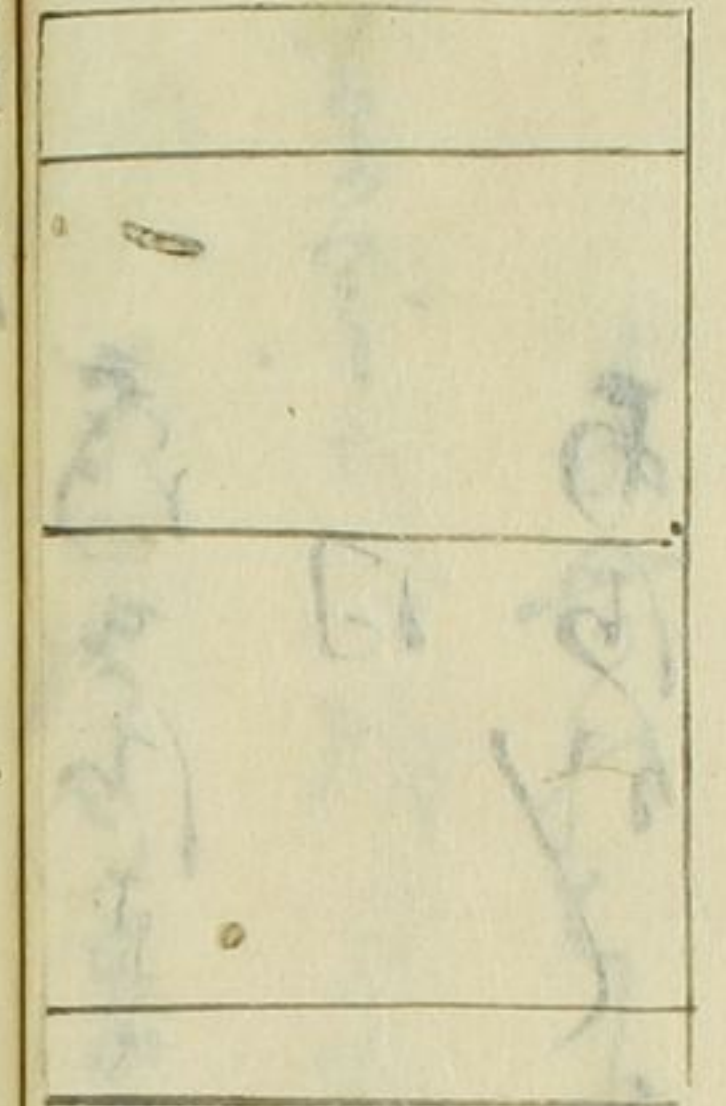
りりりりりりり

りりりりりりり

夕方のヤリ乃流しよきし
三才のくくくくくくくくく

卦變を仙祇之變

合能五をくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
中へ積直す卦との是も中下へくくくく
下へくくくくくくくくくくくく
上中下乃りくくくくくくくく



三候きのりや
くくくくくくくく
くくくくくくくく

近漸降のくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく

くくくくくくく

くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく

くくくくくくく

かくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

夏産きし
...
...
...

かきこきるいし
...
...

古今傳本の可きと云ふ例を
...
...

和語之正結傳之事

和代二神ありて
...

多きと云ふ對力をあわし
...

衣通所六多の解小可世
...

和代集とあはれむい
...

在りのま
...

能同は師あり和文
...

二條家雜傳あり和文
...

和代是と云い傳記
...

又傳記系子乃後書
...

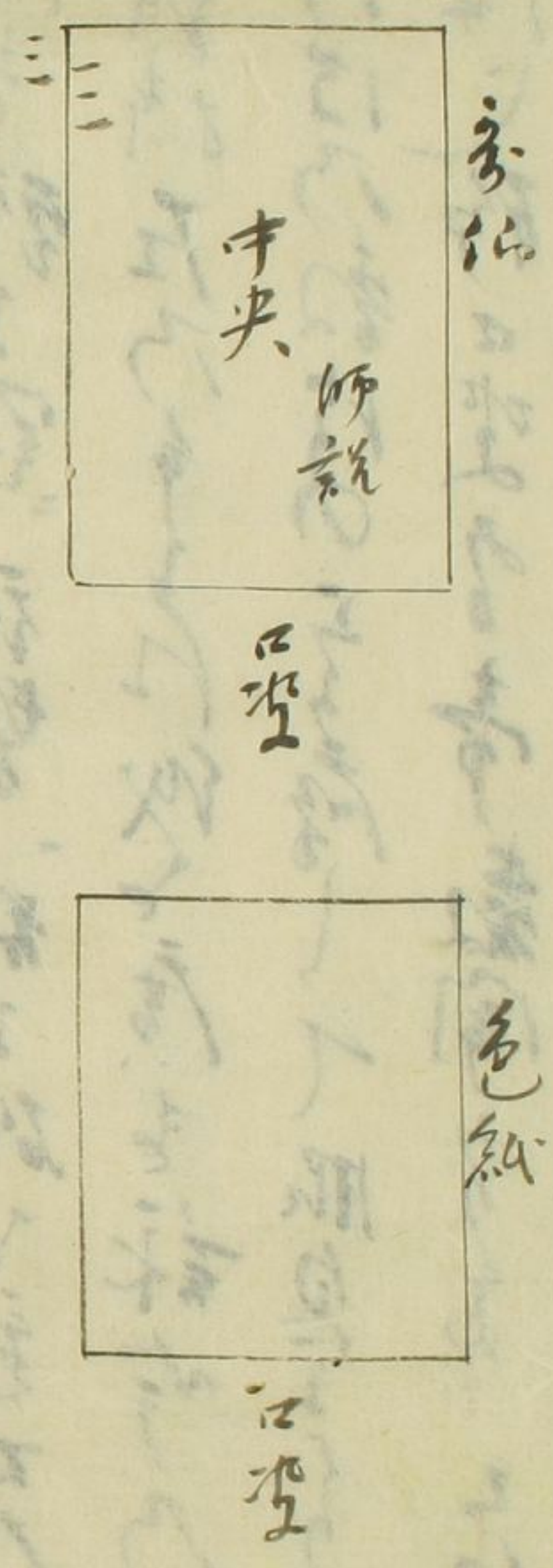
和代傳記の相傳
...

和子一區相傳
...

和代傳記の相傳
...

和代傳記の相傳
...

正心此人磨乃像其名實乃人磨と申すなり
 教仙形一紙正法系色紙形高下以爲なり
 色紙者仙帛之法刻受漸親一なり



教仙之起事

三十六人之云傳者依勅定其法申之其傳曰
 支教仙之所本定三十六人則其代生長之教天
 度比度三十六度一諸教天人此有攝其度
 故明此三十六度全也天高長之度三十六地四
 長三十六方子百教解之正一是以分位所本
 分道用長氣定三十六人天比自死之法象
 合三十六之長教古人聖法之由也
 傳云謂三十六人分位從法修持母等也
 凡言諸者之律呂音者者或天心也又言一
 年十二元氣之律呂陽神曰者者自左証者
 自右正心正禮又交婦昆如斯約身也約身字
 如約巡行天位而今途同處
 陽神等進唱云

善哉遇可養也世正子

陰神ヒコリテ 陽神ヒコリテ 和曰

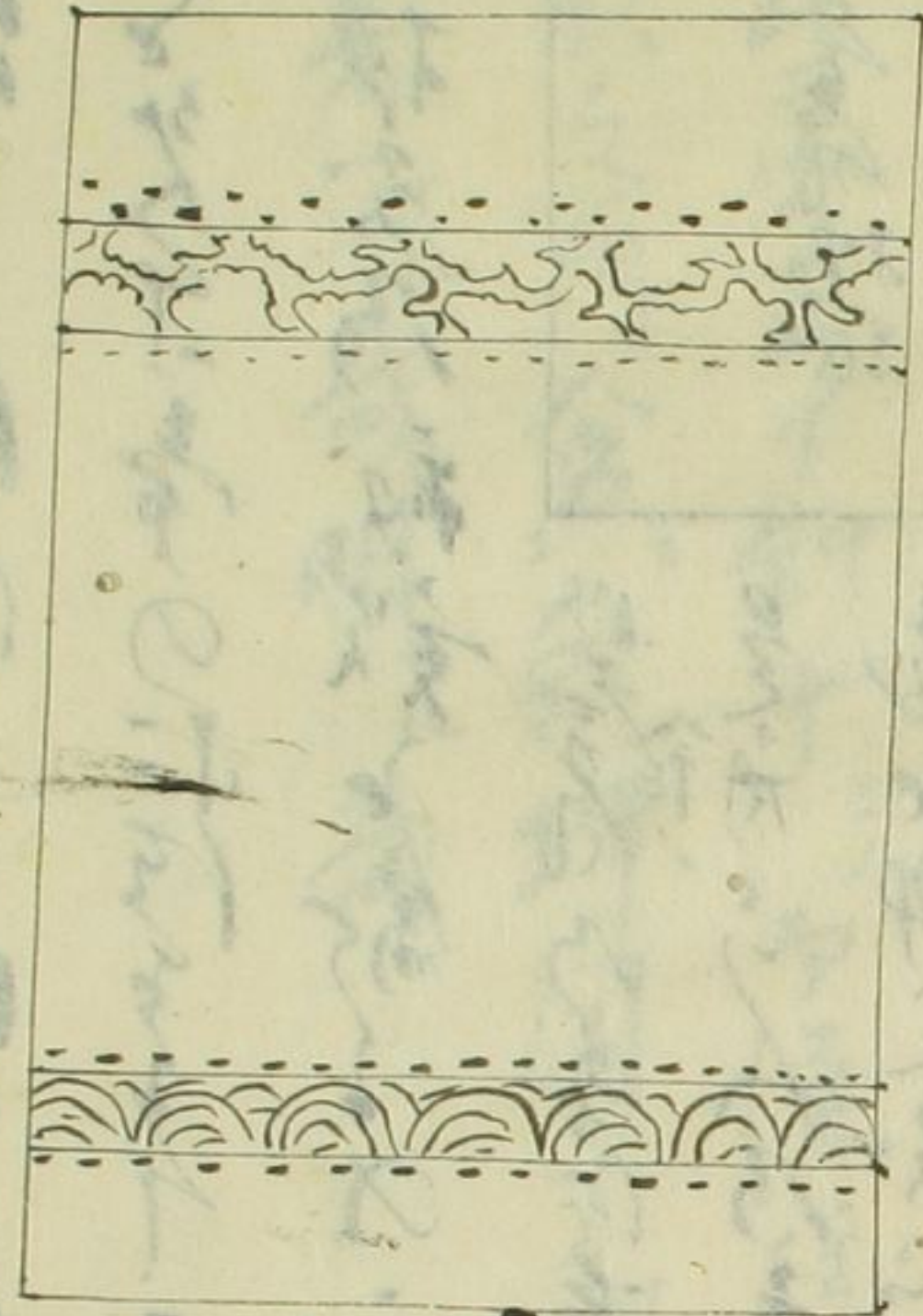
干於奸矣 故遇年可受少雄德

有口也

二六西家傳訓
早二五や之三九九千少下六二

以上清陽二神之元氣之律呂和名之調子合二儀
之十六元氣之律呂和名之調子合二儀
呂陰神ニ 而自死ニ 而自死ニ 而自死ニ 而自死ニ
六度ニ 日本神代之以用神正之符節三國經造
路如之所感神明通力之正行ニ 神道難慮矣
此若二神和名之二十四六吟則成和歌之詞初故
吾仙名以二十四六吟則成和歌之詞初故
仙也誠ニ 方化二十四六吟則成和歌之詞初故
十二律調子常吟ニ 二十四六吟則成和歌之詞初故
所感ニ 仙人之長ニ 成如馬比座散之長ニ 馬比座
仙ニ 宜者ニ 梅露ニ 故

公但鄉之十六人歌仙也故和歌變



此歌有口也
此外多似言下句也
刻有比者及和言本
元歌刻盤六折三折三折三折三折
下水祇下才三折一折三折三折
分仙歌有在太水者畫多和言六折
下折二事置終也但言下あり

左下之書變作者書所乃在宮多有其所言方之
教之物也而受師教也

志

かきしきりしきり乃るにせしむる目あはる夜半乃る
清室と新しきあはるあはる其面をのた
とかりて人磨の像とかりし似たりて人磨
乃るゆりて後し書に存するものなり
形とてふ人磨の像とかりし似たりて人磨
かきしきりしきり乃るにせしむる目あはる夜半乃る
清室と新しきあはるあはる其面をのた
とかりて人磨の像とかりし似たりて人磨
乃るゆりて後し書に存するものなり
形とてふ人磨の像とかりし似たりて人磨
かきしきりしきり乃るにせしむる目あはる夜半乃る
清室と新しきあはるあはる其面をのた
とかりて人磨の像とかりし似たりて人磨
乃るゆりて後し書に存するものなり
形とてふ人磨の像とかりし似たりて人磨

人磨
二首

人磨の像とかりし似たりて人磨

人磨

一のの
 一のの
 一のの
 一のの
 一のの
 一のの
 一のの
 一のの



像

明三上人

換五丁

結ぶ所を紙を刻り
 結ぶ所を紙を刻り

結ぶ所を紙を刻り
 結ぶ所を紙を刻り

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

明三上人

換五丁

口波あり

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

一軸乃紙之長
 一軸乃紙之長

是自然之十、站乃、如、是、三、才、以、の、事、之、也
御、口、受、あ、る、ま、ま、一、作、を、ま、あ、り、の、家、侍、を、し
云、か、う、し、の、事、か、う、し、の、事、

人、磨、像、の、好、意、を、得、て、あり

必、鮮、多、老、眼、所、物、を、鮮、稗、欣、表、歎、

衣、裝、風、標、懐、東、を、望、眺、望、是、幸、と、の、事、

人、師、侍、を、ま、ま、あ、り、ま、ま、

元、人、磨、の、事、に、似、萬、磨、陸、河、に、云、流、し、例、

難、も、縁、を、到、一、面、顔、之、相、自、元、上、元、達、教、神、力、

之、所、現、其、响、鮮、を、私、歎、通、在、今、以、禮、を、可、

其、正、解、此、事、

云、仙、色、紙、の、事、

凡、物、仙、之、色、紙、也、處、在、所、圓、二、十、法、象、所、鏡、

二、十、者、正、十、鮮、十、言、正、氣、旋、坎、震、兌、艮、

合、良、巽、坤、乾、此、中、自、氣、正、行、一、二、三、四、五、之、

法、象、也、鮮、仙、色、紙、名、白、紙、之、比、歎、自、天、

九、比、十、之、法、數、五、人、之、法、十、陰、之、私、同、名、

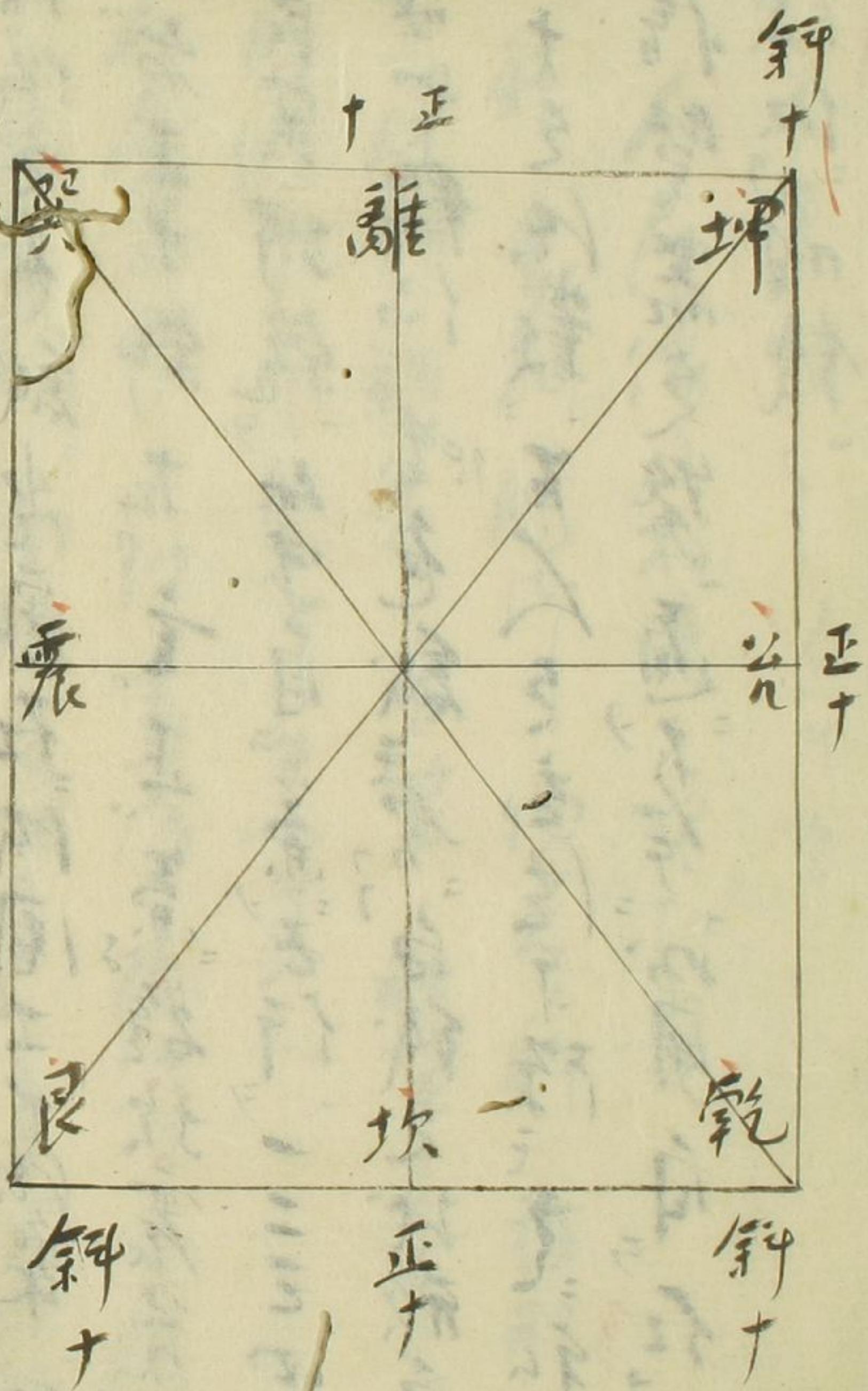
聖、信、賢、聖、之、物、通、在、今、以、用、自、在、而、

法、度、似、明、鏡、

層、風、交、す、紙、象、仙、歎、色、留、事、の、り、秘、鏡、

高、り、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、

是心經之秘分之得受之仙之相傳之少事也至極
 其之定家之有也乃習之得受之有也



師說あり

上圖三画七教生万画正自取斜十之法象

出是至故非多非教之數此取四角之自得

自教之聖法行其化之在紙分仙之式比多未

層過不及日中分仙之紙教之法之要象原

哉大哉又教仙之布教者中少之刻之知大

無欠中欠之分之二小欠之分之二其欠

分法者陰之陽之陽之陰之數自成一虛實

之法象之化之在式之化之法通之在道

已之由分細法之受也

三人之人應之矣

日中分教之法者原其象也

摩訶之居寺十軍代清河原三官^天河守業摩^摩摩

摩訶之居寺十軍代清河原三官

續日本紀卷之四神武天皇御宇道藤原起羅摩

勅撰之軍二代之武天皇御宇中代桓武天皇御宇

之中之能可延^龍表十之多^龍乃日十之^龍差又^龍之^龍文

に智茂の居人摩訶とあり

又之百^龍摩訶^龍之^龍人^龍之^龍人^龍摩訶^龍あり

回口人摩訶山城史生上乃人摩訶摩訶命^龍河守位下至

年人摩訶

云仙之標本^龍支^龍人^龍摩訶^龍之^龍人^龍摩訶^龍

歎心起無傳紀事

詩之讀家之文法之知遠承國の自注を一切の
とつて是より好むより唐の詩と郭といふ唐の
代の杜子美の事たるはと詩人有日存するは國の
師本より文人唐の詩家祿明人とて多あり程
詩家の文法通補して古今其名を得事誠
なるが小書の子序より杜子美の詩と云ふは
古今の史入し馬下子衣被下史より古今の史
入下るを天祿以てり解記馬氏同前史の離
れ言はるる及ふ人々也似杜子美の詩の解也
と云ふは馬下衣被下と云ふは類推と解記一切

乃道理乾坤自然通守之事 於詩定也

とすり同型古白と詩人あり 詩の仙より

也之天老之造代乃物也 自然と得て心也之内

通こと乃所とありつとありさむと杜若

あり及とありつ後世とありてと杜若とあり

詩乃証也 唐書とありし 書紀とあり 仙家物

あり 仙乃傳定あり 和歌とあり 通ことあり 方以

一解乃乃理由とありつとあり 詩を自註

兼也 禰事とありつとありし 受師記

同得受と事

類聚國史の記書とあり 一代節述とあり 若錦

帝より受讓とあり 大和とあり 城鴻並刺とあり

即位多し 錦明とあり 出所とあり 是は同大和國

謂誤同とあり 都とあり 是は信守とあり

此れとあり 掃都とあり 是は禰人等とあり 注若しとあり

禰之所とあり 能達とあり 乃所とあり 家門とあり 掃

樹とあり 禰人 禰子とあり 所とあり 禰子

三人 禰子

乃一節の玉宮所とあり 禰子 禰王とあり 禰宮領後

國所之乃能殿とあり 禰子 禰古とあり 禰子

禰子

中二義清王御母之天孫王漢王乃母之同
東宮領後國之進と云所之清証一々之
女帝あり而後終つては行ふも尚所し好す
王代正統云少國者ありし降之不記此は代皇極
女帝乃所母也

中二掃本云又人廣所母之同天孫皇女あり齋
明二年丙子日ヲ云山邊の能教ありて世とし此
アリ天大見皇女子と云あり 能達云皇後教
所年より人廣と云あり 此所子幼く皇諸徳
産しるらん帝その愛誠意感有通明照之
心思皇行此所子人廣と云あり此得右

有通龍廣音之口變力り身を宗継帝皇之
字音訓義此所子文字也のん子と和歌の道
天下よ心を傳へし能長と一しと詔力とせりて
孝ありて左見皇女子群臣と云りて此事は
已れ之詔信音隨乃所者正と云わん事と祝
詞も有り此所子と礼ありて自然と人廣
所名とト云る有り又皇女子産て東宮に家門
乃前子掃御あり昔掃御是廣押人命乃信
と云る皇女此所子と云能しありて此を
ありて母掃御と云人廣と云り傳へし此は
云は事掃御と云此はありと云是掃御也

乃有^レ此也

人唐入唐^ノ事

太宗天官^ノ許寧^ノ軍田^ノ自^レ人^ノ遊^レ唐^ノ傳^レ其^ノ大^ノ室^ノ
之^ノ年^ノ時^ノ而^レ才^ノ上^ノ進^レ船^ノ越^レ見^レ人^ノ唐^ノ見^レ自^レ人^ノ
之^ノ傳^ノ之^ノ教^ノ此^ノ志^ノ中^ノ之^ノ西^ノ之^ノ月^ノ之^ノ出^レ其^ノ中^ノ唐^ノ唐^ノ月^ノ
詔^ノ之^ノ人^ノ唐^ノ乃^レ以^レ俗^ノ所^ノ乃^レ以^レ景^ノ及^レ俗^ノ以^レ人^ノ為^レ
其^ノ業^ノ之^ノ下^ノ故^ノ世^ノ之^ノ國^ノ何^ノ海^ノ路^ノ作^レ報^ノ二^ノ也^ノ

名^ノ細^ノ丁^ノ福^ノ足^ノ乃^レ海^ノ之^ノ無^レ傳^ノ也

平^ノ布^ノ爾^ノ限^ノ好^ノ山^ノ跡^ノ鳴^ノ根^ノ者

大^ノ王^ノ之^ノ遠^ノ乃^レ朝^ノ庭^ノ跡^ノ蟻^ノ通^ノ

海^ノ門^ノ字^ノ見^ノ者^ノ其^ノ代^ノ之^ノ所^ノ合^ノ

人唐^ノ事^ノ云^レ於^レ唐^ノ回^レ詠^ノ焉

云^レ花^ノ柳^ノ傳^ノ也

乃^レ之^ノ言^ノ傳^ノ也

其^ノ年^ノ唐^ノ高^ノ麗^ノ元^ノ年^ノ甲^ノ七^ノ月^ノ九^ノ日^ノ軍^ノ田^ノ自^レ人^ノ

日^ノ人^ノ唐^ノ婦^ノ朝^ノ事^ノ

秘^ノ記^ノ切^ノ紙

後^ノ高^ノ麗^ノ所^ノ之^ノ條^ノ經^ノ後^ノ賴^ノ後^ノ成^ノ之^ノ定^ノ家^ノ家^ノ條^ノ
其^ノ年^ノ之^ノ所^ノ之^ノ和^ノ高^ノ所^ノ之^ノ所^ノ之^ノ有^レ合^ノ之^ノ氣^ノ曉^ノ也^ノ之^ノ
詔^ノ人^ノ有^レ事^ノ之^ノ中^ノ之^ノ人^ノ唐^ノ以^レ事^ノ之^ノ下^ノ之^ノ

就^レ田^ノ川^ノ以^レ事^ノ之^ノ所^ノ之^ノ備^ノ乃

之^ノ所^ノ之^ノ所^ノ之^ノ所^ノ之^ノ

是も...の...し

...源...

...の...
...の...

...の...し

秘説切紙...乃事...

二...の...
...の...

梅久...乃事...

日乃...乃事...

冷泉家...

秘説切紙...乃事...

...の...乃事...

...の...乃事...

秘説切紙

藤原教隆引...乃事...

田院之...乃事...

...の...乃事...

神皇...乃事...

若神...乃事...

...乃事...

又及利水湯之類、別着跡あり、所々之類、
其類、是冬、下之、其類、有、之、類、
多、子、依、入、り、り、

柿本右史人磨系圖

己未年十一月即位、一庚申、
繼體二年、己丑二月、即位、

欽明天皇

母皇太后平白皇女
薛云國排用唐三臣

此、所、之、情、理、也、是、所、以、也、
百、國、同、心、也、

并、難、河、塘、江、
宣化二年、即位、

治、十、年、
此、所、之、情、理、也、

敏達天皇

母皇太后石坂皇女
古、年、

此、所、之、情、理、也、

石、坂、皇、女、
以、兩、年、

用明天皇

母皇太后石坂皇女

二、年、
天、皇、

三、年、

廣天皇

母皇太后石坂皇女

推古天皇、
天、皇、

天、皇、

般石梁白女

月明天宮依 而居右子母
活去部定棟 补白女
母少婦夏

松井白子 日去備作王

云宮元多 月而居左九
經體十 年清純活古帝
崇峻天宮

推古天皇 高祖天皇
高祖天皇 高祖天皇
高祖天皇 高祖天皇

高祖天皇 高祖天皇
高祖天皇 高祖天皇

高祖天皇 高祖天皇
高祖天皇 高祖天皇

高祖天皇 高祖天皇
高祖天皇 高祖天皇

高祖天皇 高祖天皇
高祖天皇 高祖天皇

山背天皇

高祖天皇

高祖天皇

高祖天皇 高祖天皇
高祖天皇 高祖天皇

高祖天皇 高祖天皇
高祖天皇 高祖天皇

漢國小多外侯殺之
漢國小多外侯殺之
漢國小多外侯殺之
漢國小多外侯殺之

第漢王

母不係王漢王女

天宮之身中...
天宮之身中...
天宮之身中...
天宮之身中...

宣德王

母不係王漢王女

宣德王...
宣德王...
宣德王...
宣德王...

有馬皇子

有馬皇子

母不係王漢王女

正三位...
正三位...
正三位...
正三位...

臣...
臣...
臣...
臣...

正三位...
正三位...
正三位...
正三位...

正三位

母不係王漢王女

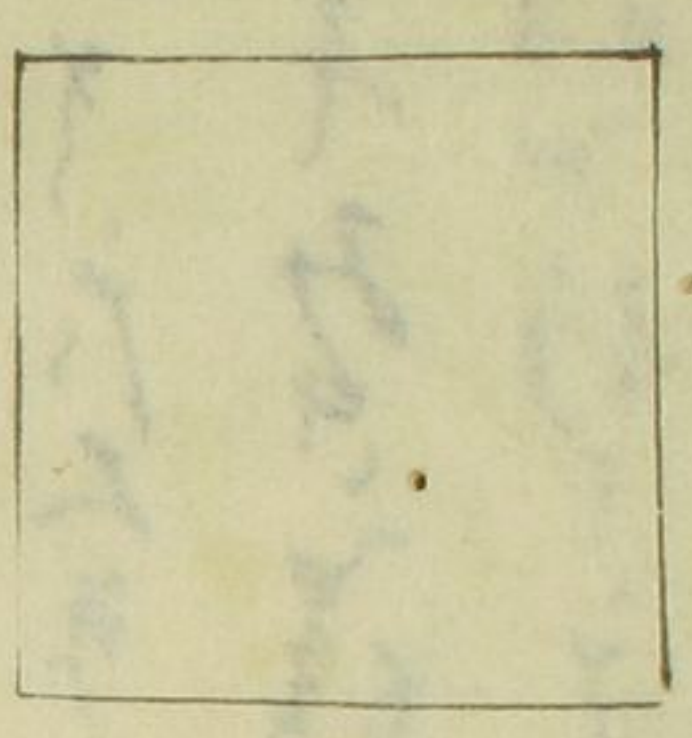
文武...
文武...
文武...
文武...

唐中書色紙丁紙

唐中書色紙丁紙

唐中書

唐中書



色し乃紙の色... 細色紙也

大聖若經... 表多羅樹

夏... 色為五色

又諸社紙色之有異也

又本朝之三跡之所用

同色... 調色法

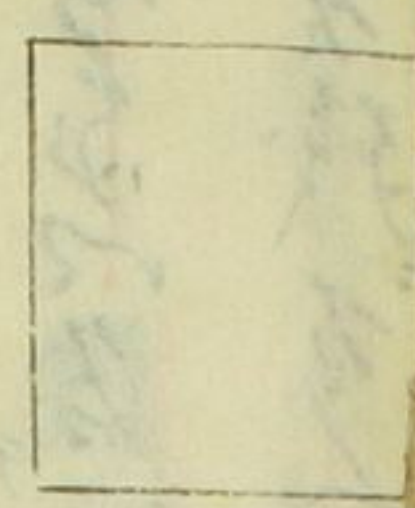
從唐後漢... 二條家之抄

又

又華子書者以分格の文字云書多緒之也
他之書亦多緒之也
名之之也取通之也
侍中凡字廣字能令各節波深重之傳義
筆乃家二字顧子此字有北字
之部能論所全攝此一書可秘

小倉色紙之章

東海美門定家之流紙之小倉色紙
所有推澤子色紙之類
此



横字少



横字少

又小倉色紙之法
丁法也又横字少
又書教於新
あり紙色之紙
寫百人之取像
あり小倉色紙
言上少少分合
持渡湯二分
則減少少分
又横字少分合
四六二平四角一周

玉城地行
其社大社
地行
其社
大社
地行
其社
大社

有二十言氣自存潤日能氣成方混本款九字
之四教有人作法之用之原重不來以女之
百人一首之變方正在中古而人主身中自有
以之本故有方及一之為法及一之誠之
其多之百是也生之也夫方自死時
其冲之方之也夫方自死時
古之古者以奇意皆不主之志一變百人
唯云一首多也此色紙有下之傳古之
其之用又讀百首有傳受二修亦只此百人一首
有必有名之也之是也百人一首之於小會色紙之中
畧殘百人一首之也故微此系備百人一首之原也
小會色紙之文章學考錄之可解其外亦
短冊用如部章

短冊用如部章

中短冊者從臨高節會所用之緣起也所
臨歌者正日十五日十六日此故不限定中
夫以所臨舞之也其義與人合之舞舞
詞祝之則之臨舞之也又軍狀其也
平日行幸太極殿其方中其有節會之圖中
有臨舞之行其又日之內有玉之圖也
其廣之方人臨舞之也其廣之方人臨舞之也
又學子以所臨舞之也其廣之方人臨舞之也

古小端分、以之標、端多之友事、細、為、細、之、
所用、(國史館) 是、曰、其、代、經、籍、者、以、之、為、據、紙、式、
強、松、原、用、此、紙、以、之、切、之、據、之、信、守、之、
一、紙、成、十、經、書、軸、書、對、人、如、下、諸、人、皆、以、
信、之、無、故、之、經、冊、是、以、書、經、冊、不、限、詩、
歌、口、受、あり

此、延、經、冊、起、之、事、也、
元、享、三、年、九、日、初、旬、以、是、書、之、以、義、教、之、事、所、
賢、の、所、記、之、事、中、幼、童、雅、世、の、和、音、初、書、者、
之、不、和、音、之、事、と、人、と、言、は、れ、不、和、音、
あ、れ、ら、し、む、の、事、と、い、ふ、事、也、

元、享、三、年、九、日、初、旬、以、是、書、之、以、義、教、之、事、所、
賢、の、所、記、之、事、中、幼、童、雅、世、の、和、音、初、書、者、
之、不、和、音、之、事、と、人、と、言、は、れ、不、和、音、
あ、れ、ら、し、む、の、事、と、い、ふ、事、也、
は、り、ま、て、義、教、之、事、所、記、之、事、中、幼、童、雅、世、の、和、音、
初、書、者、之、不、和、音、之、事、と、人、と、言、は、れ、不、和、音、
あ、れ、ら、し、む、の、事、と、い、ふ、事、也、
は、り、ま、て、義、教、之、事、所、記、之、事、中、幼、童、雅、世、の、和、音、
初、書、者、之、不、和、音、之、事、と、人、と、言、は、れ、不、和、音、
あ、れ、ら、し、む、の、事、と、い、ふ、事、也、

元、享、三、年、九、日、初、旬、以、是、書、之、以、義、教、之、事、所、
賢、の、所、記、之、事、中、幼、童、雅、世、の、和、音、初、書、者、
之、不、和、音、之、事、と、人、と、言、は、れ、不、和、音、
あ、れ、ら、し、む、の、事、と、い、ふ、事、也、
は、り、ま、て、義、教、之、事、所、記、之、事、中、幼、童、雅、世、の、和、音、
初、書、者、之、不、和、音、之、事、と、人、と、言、は、れ、不、和、音、
あ、れ、ら、し、む、の、事、と、い、ふ、事、也、

恆乃極之日中多事也

恆一尺二寸 式辨方 換一寸五分 象の

以之所多之有る所也 是之乃類之の類也

小經每 聖子十七寸 口波力多事也

經每礼之章

同凡道月板一寸法 有る所也 式辨方

大經每之七相者表南北也 骨系而方尔 則而天

離之色 而後 北北之坎解水也 識水火離湯

之中和自 有正身口維之相法尔 然一物一尺極大

二系天人比 見之種之正法 日年正之如法不

輕重之變 而不離 正之奇特 廣成太哉

聖一尺一寸者第一 多陽二氣 惟言陽者自

為長大故 陽伸 而長形 亦陰換而持一寸五分

陰本縮 以換 惟數 天一之正數 有一寸五分

比之八廟持 惟數 八分 有 和合之象 亦恆一尺

三寸之何 一者天一 而三者三寸也 大經之

法寸也 種一寸中 此一變 贊 諸籍

又小經每 聖子十七寸 五七者小陽之數也 換一

寸 故天一 而自正持一寸法 言天九比十寸 則分

之 而内 則比者有自一之數 餘九者天數而寸之

中 餘一者比之換數 法象也 大小二算之内

三寸百物 亦以之為 無私長經之法 辨信 聖子

以此自正 裁聖子之法 合寸 而有 四象之數

言 一与九 老陽數 二与八 少陰之 与七 少陽

四十六 老陰也又五者故五澤取天賦十者故地
 賦百十者古人四象教傳如上其以數列陰陽
 天竺唐古日本各依以之傳記謂經每大事
 自之法有回象數三千世界之極原以
 之分輪則必不能方寸間故有七曜經籍是
 日自水火土金木也廣業須在河州之云此誠
 初分善善者十二神也或大術中元氣也
 又新之意味心之善也則神人通方之非秘也
 故書位身一此取之經每年法尔而有天回教
 比之法是心七曜之學不來自相備所
 愛之學也

三種經每書

大 一三寸

中 一三寸五分

小 一三寸五分

中 一三寸五分

小 一三寸五分

小 一三寸五分

三種經每之秋者自有大中小之法一法
 三尺半橫半寸之以自一比二橫二寸法
 統方角豎橫合以持以行數
 次中尺豎一尺寸五橫寸五分對大則中象數是

夫七曜也。夫之本在老陽。九尺有字。此本以老陽
之數。出七曜之經。每以七曜者。日自下。火土金水
之七。括以陽之數。五行星別。大星大支。軍家
秘法之為。多也。又七曜之配。分才一經。每以二
積。少者。白曜。才二。望一。尺六分。積一。才九分。當
曜。才三。望二。尺一寸。分積。才五分。當水曜。才四
望一。尺一寸。分積。才一分。當火曜。才五。望一。尺一寸
積。才九分。五層。高。才七。望一。尺一寸。積。才九分
當金曜。才七。望一。尺六分。積。才七分。當土曜。其
又也。有七種。青赤白。為星。是。潤色。黃色。曜也。
水色也。言。維。泥。之。也。其。色。也。也。從。水。象。
清。是。也。從。火。有。曜。色。謂。才。一。經。每。日。曜。故。筆。
動。氣。也。才。二。經。每。日。曜。故。是。書。動。氣。之。類。通。
平。人。言。日。乾。天。日。坤。地。而。廣。通。下。民。之。事。類。
當。此。之。法。也。從。才。三。經。每。自。分。二。種。之。配。之。此。
內。才。三。才。曜。震。本。宿。養。白。故。以。宿。女。之。類。去。此。
取。天。則。若。天。才。有。是。電。之。象。故。以。此。經。每。明。
才。是。才。四。之。經。每。親。王。御。政。家。之。所。用。也。又。五。七。經。
之。配。當。七。金。水。也。才。五。納。言。之。所。用。才。六。春。龍。之。
所。用。才。七。四。位。五。位。都。之。人。之。所。用。順。上。法。才。明。此。
義。其。

以七曜經每配之之法。原其之本。是。此。義。也。

七曜二通配五圖曰

一者日月水火金土
二者日月水火土金水
一 二 三 四 五 六 七

右二段配五順才三段而起其是色然法尔
有自化之緣起其言東子震本卦若持震
為雷之象以有子星白字通成之字
成之於電義也又一義火曜之卦外明而有
中煙向者中書之象是以七曜之內取為火
不曜起子星之色其化術在人合之
神德奇效的故

